

「授業のユニバーサルデザイン」の基本

誰もが 学びやすい、参加しやすい授業づくりを目指して、豊野小で共通理解したことです。どの授業でも心がけましょう。



- ①予想されるつまずきを考え、対策を準備して授業に臨みましょう。
- ②教師が話すだけの時間＝児童が聞くだけの時間をできるだけ減らしましょう。
- ③わからないことを「わからない」と言える、失敗してもよい雰囲気を学級で作りましょう。→**相互理解の工夫**
　　<例> 友達のよさを認め合う時間をとる。
　　　　間違いや失敗を責めない、責めさせない。
　　　　間違いや失敗を笑ったり冷やかしたりする児童を許さない。
- ④**視覚化**…わかりやすく伝えるため、掲示物・実演・動作化などの工夫をしましょう。
- ⑤**焦点化**…本時のめあてを必ず板書しましょう。
　　　　授業の山場を考えましょう。
- ⑥**共有化**…友達と伝え合う活動を取り入れましょう。隣や前後の児童との確かめ合いでもよいです。また、誰もが参加しやすくする手立て（マニュアル・思考ツールなど）を考えましょう。

⑦振り返りの時間を、どの教科でも入れましょう。何を学んだか、何ができたか、次は何を目指すかなどを考えさせましょう。

ふりかえり

★今日、学習したことは？

—— を学んだ。

★友だちから学んだことは？


・○○さんの発表を聞いて、——。

・話し合いを通して、——。

★考えたことは？ (これからの自分とつなげて)

◆今日の学習のじょう

◆次の学習に向けて



★学習の前後でかわったことは？

(できるようになったこと・新しい見方、考え方)

・前より、—— になった。



⑧学級経営…「学習規律の徹底は学びやすさの基本」

クラスのルールが明確になると、児童は安心して生活・学習ができます。ルールづくりの基本は、場の構造化と時間の構造化です。

場の構造化 =どこに、何を置くかを明確にする。

時間の構造化 =いつ (いつまでに)、だれが、何をするかを明確にする。

わかりやすいルール→成功体験→称賛 というサイクルをつくりましょう。また、刺激量調整をして落ち着いた環境で学べるようにしましょう。

⑨授業展開の構造化

- 児童が聞くだけの時間をできる限り短くしましょう。
→考える時間、参加する時間の確保
- 児童が集中し、意欲的に学習するため、授業の「山場」のタイミングや仕掛けを工夫しましょう。

本時の目標：（展開1）を通して（山場）に気づき、（展開2）することができる。	
導入 （つかむ）	参加意欲の喚起 しかけ 「おもしろそう」「えっ何?」「やりたい!」「知りたい!」
めあて	子供のめあて
展開1 （考える）	「教えられて理解する」から しかけ 「考えて理解する」へ
山場	感嘆詞の発生 「できた!」「わかった!」「おおーっ」
展開2 （考える・まとめる）	普遍化・適用化・機能化・応用・発展 「もっとやってみたい!」「もっと知りたい!」
ふり返り	各自の（教師の）評価につながるまとめ方 「この授業で学んだのは…だ!」

山場から
時間配分や
めあての逆算